

Hawaii Wedding Story

一生に一度の大切なハワイ物語

憧れのハワイ挙式を『ファーストウェディング』で実現させた二人の実話エピソードをお届けします。
第8回は手作りのウェディングドレスで挙式を行った丹呉さんの物語です。

Text: eri Photo: ERIKO

Vol. 8

「愛が詰まった ドレス」

彼と私は価値観が似ているなど思
うことがたびたびある。物静かで控
えめな彼と、おっとりした私。価値
観が似ているから、ケンカになるこ
ともほとんどない。そんな私達の相
性がいいのではないかと初めに目を
付けたのは共通の友達で、その友達
を通じて私達は知り合い、お付き合
いをするようになった。

付き合い始めて2年くらいしたこ
ろ、友達が主催する新年会の席で、
友人数人が見守る中でプロポーズを
してくれた。恥ずかしがり屋の彼が
そんなことをしてくれるなんて夢に
も思わなかったし、余計に感動した。
「はい」と私は答えた。

*
新年会でのプロポーズを経て、さ
つそくプロデュース会社を回った。
二人の共通認識は「定番ではなくて、
オリジナリティのある式にしたい」
というもの。検討をするうちに海外
ウェディングへと心が動いた。

そこでハワイ挙式専門のファース
トウェディングを訪ね、出会ったプ
ランナーさんがSさん。Sさんは初
めて会った時からなんとなく波長が
合うなと感じていた。優柔不断で悩
んでしまう私の話をいつも聞いてく
れたし、友人のように仲良く話をし
ながらも、決めなくてはいけないこ
となど締めるところは締め、私達の

理想とする式の実現に向けて全力で
サポートしてくれた。

*
パタンナーの仕事をしている彼は、
今までも何度か友人にウェディン
グドレスを作っていた。そして自分
たちの番になり「よかったら、ミュ
キのドレスは手作りするよ」という
控えめな提案は彼らしく、私の胸に
ジンときた。ドレスの制作にかかっ
た時間は約4カ月。エンパイヤにす



や彼の蝶ネクタイ、母と妹のムー
ムを作り、準備期間はたくさんの手
作りをして過ぎていった。

彼の衣装はというと、以前お世話
になった上司の方が、スーツを仕立
ててくれることになった。ここでも
「定番ではなくて……」という考え
によって、タキシードではなくスー
ツをリクエスト。紺色のストライプ
の生地と白いパイピングが映えるジ
ヤケット、紺色のパンツ、そしてビ

と形は決まったものの、胸元のデ
ザインやトレーンの長さなどに迷っ
てしまい、何度も相談を重ねた。挙
式直前の1か月は毎日縫って、毎日
フィッティングをする日々。そんな
風に細部にこだわってドレスを作れ
ることは、本当に幸せなことだと思
った。ドレスだけでも大変なのに、
両家の父に向けておそろいの布でア
ロハシャツも作ってくれた。私も彼
のアドバイスを受けながら、ペール

と形は決まったものの、胸元のデ
ザインやトレーンの長さなどに迷っ
てしまい、何度も相談を重ねた。挙
式直前の1か月は毎日縫って、毎日
フィッティングをする日々。そんな
風に細部にこだわってドレスを作れ
ることは、本当に幸せなことだと思
った。ドレスだけでも大変なのに、
両家の父に向けておそろいの布でア
ロハシャツも作ってくれた。私も彼
のアドバイスを受けながら、ペール

イチ撮影用に白いハーフパンツも仕
立てていただいた。上質な生地です
作りで仕立てられた衣装は本当に素
敵で、それらを身にまとった彼もま
た、かっこよかった。

*
挙式に選んだのは、由緒正しく歴
史もあるカウマカピリ教会。こち
まりとしたウッディーな雰囲気、気
に入らず、日本ではあまり知られ
ていない教会という特別感もいな

と思った。挙式は1日3組だけなの
で、ゆったりと式が行えたと思う。
参列した家族にも好評で「ステンド
グラスがキレイだったわね」と母は
うっとりしていた。

挙式の後にはフォトツアーへ。一日
ヘアメイクさんが付いてくれるプラ
ンにしたので、ヘアアレンジをして
ハワイらしくハクレイを付けてもら
った。フォトツアーでの行き先はノ
ースショア。定番の写真は恥ずかし
いと担当のSさんと相談して、ノー
ースショアにあるケイビーチとハレ
イワの街中で撮影をすることにした
のだ。晴天に恵まれた一日で、特に
ビーチでの写真は青空が映え、美し
いものになった。街中の人が撮影し
ている私達にお祝いの言葉をかけて
くれたことは、今でも心に残ってい
る。フォトツアーが終わると、夜は
ハレクラニでレセプション。家族に
囲まれて、和やかな時間となった。

*
挙式の準備からハワイ挙式、そし
て日本でのパーティーを通じて、た
くさんの人が協力をしてくれ、数え
きれないほどの人がお祝いの言葉を
かけてくれた。一生に一度しかない
特別なイベントは、彼の家族はもち
ろん、パーティーに来てくれた友人
達や彼のスーツを仕立ててくれた上
司の方まで、私達を想ってくれてい
る人に囲まれていること、その幸せ
を再認識するプロセスだったように
感じている。これからも、この感謝
の気持ちを忘れずに、彼と私の周り
の人達をもっと大切にしていき
たいと思う。